

魅力発信！えひめ農業NOW

令和3年 12 月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、12 月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

魅力発信！えひめ農業NOW(12月)

局・支局	室・拠点	No.	標 題	頁
東予	地域	1	女性農業指導士が核となり就農初期女性農業者を育成	1
東予	地域	2	被害が増加するニホンザル対策技術指導を実施	1
東予	地域	3	農業経営の強化を目指し「リーダー研修会」を開催	2
東予	地域	4	就農初期農業者等対象に農業機械に関する農業基礎講座を開催	2
東予	四中	5	地域の特産品をもっと身近に！～さといもクッキング～	3
東予	四中	6	四国中央市富郷地域、年末恒例の食文化を後世へ	3
東予	四中	7	攻めの姿勢で有害鳥獣捕獲を！くくりわなを利用した鳥獣害対策講習会を実施	4
東予	産地	8	6次産業化に取り組む農業法人が販促動画を公開	5
東予	産地	9	いちご生産者が優良農家の栽培を学ぶいちご生産者が優良農家の栽培を学ぶ	5
今治	地域	10	第2回今治地区魅力発信活動(媛かぐや)を開催	6
今治	地域	11	今治地域の青年農業者が有機農業について学ぶ	6
今治	地域	12	岡山理科大学等と連携し今治地域の鳥獣被害調査を実施	7
今治	しまなみ	13	大島の小学生が収穫体験	8
今治	しまなみ	14	しまなみ農業指導班・岩城駐在所で、岩城中1年生が農業体験(2回目)	9
今治	産地	15	大阪府内の飲食店でしまなみオリーブオイルの評価上々	10
今治	産地	16	東京、広島の花屋に今治産花木の評価を確認	10
中予	地域	17	研修生らが野菜の天敵利用方法を学ぶ	11
中予	地域	18	なす天敵利用に向けて	11
中予	地域	19	果実品評会へ果実を出品し、栽培技術及び品質の向上につなげる	12
中予	地域	20	講義を通して、就農に必要な知識・技術の習得を支援	12
中予	地域	21	認定農業者に鳥獣害対策指導を行う	13
中予	地域	22	若手普及職員が、各地区青年農業者定例会で「農福連携」の啓発活動	13
中予	地域	23	「農福連携」をきっかけに独立就農を目指して施設外支援へ	14
中予	地域	24	令和3年度農福連携担当者会の開催	15
中予	伊予	25	媛かぐや販売促進活動	16
中予	伊予	26	中山栗せん定講習会を開催	16
中予	伊予	27	伊予地区一次産業女子グループ「葉れるや」が撮影方法を学ぶ！！	17
中予	伊予	28	認定農業者、SDGsを学ぶ	17
中予	伊予	29	砥部の農産物で小学生が“ふるさとごはんづくり”	18
中予	伊予	30	伊予地区生活研究協議会がこんにやく名人の技を継承！	18
中予	久万	31	ピーマン収穫作業の労力補完体制の導入検討	19
中予	久万	32	直販所出荷者に向けた有機栽培の推進と漬物向け野菜の振興を目指して	19
中予	久万	33	農業公園研修生らが農業簿記の基礎を学ぶ	20
中予	久万	34	今年もやります！青年農業者でイノシシおり製作	20
中予	久万	35	農業女子が大阪で就農相談に対応	21
中予	久万	36	青年農業者が高校生に農業の魅力語る ～農業大学校就農啓発講座にて～	21
中予	産地	37	中予のパクチーの追跡調査を実施	22
中予	産地	38	キッチンカーでのパクチーカレーの販売で東温パクチーをPR	22
中予	産地	39	「甘平」裂果多発園で土壌改良の効果を確認	23
南予	地域	40	次年度の安定生産に向けた加工用びわ・かきの栽培指導	24
南予	地域	41	集落営農の経営力向上に向けて！	24
南予	地域	42	さといもの土入れ作業の実演	25
南予	地域	43	新規就農者(重点指導対象者)に対する巡回指導を実施	25
南予	地域	44	ドローン空撮による新たな普及指導活動方法を検討	26
南予	地域	45	温州みかん高品質栽培のノウハウを若手職員へ	26
南予	鬼北	46	花粉キウイフルーツの防寒対策を行う	27
南予	鬼北	47	管内優良事例を学ぶ。～鬼北地区認定農業者等連絡協議会～	27
南予	鬼北	48	鬼北地区の水田活用について検討会を開催	28
南予	鬼北	49	道の駅森の三角ぼうしの「ひめの凩」特設販売コーナーが人気	28
南予	愛南	50	愛南地区認定農業者、青年農業者が合同現地研修会開催	29
南予	愛南	51	河内晩柑の高樹高化の原因確認	30
南予	愛南	52	ひめの凩の食味向上、高収益野菜の導入について学ぶ	30

南予	産地	53	南予の農産物のマッチング交流会を開催	31
南予	産地	54	北宇和高校生が開発した「うめジャム」をお披露目	32
南予	産地	55	愛南町でアボカドの冬季管理講習会を開催	32
南予	産地	56	うめの連年安定生産に向け開花・結実状況調査を開始	33
八幡浜	地域	57	スマート農業技術の普及に向け、西宇和スマート農業推進協議会検討会を開催	34
八幡浜	地域	58	A I 選果機の性能向上に向けて試験を実施中	34
八幡浜	地域	59	農事組合法人笑柑園ナカウラのマルドリ施設の設置を検討	35
八幡浜	地域	60	温州みかん収穫、感染予防対策を実施して順調に終了!	35
八幡浜	地域	61	温暖化に対応した「清見」の高品質生産に向けた新技術開発をコーディネート	36
八幡浜	大洲	62	今年度設置の防護柵付近に新たな獣道、迅速な捕獲へ	37
八幡浜	大洲	63	「愛たい菜」で冷蔵シャインマスカットをPR販売	37
八幡浜	大洲	64	鳥獣害対策座談会で情報共有、新たな課題も抽出!	38
八幡浜	大洲	65	新規就農者の栽培技術向上を目指して	38
八幡浜	西予	67	新規就農者への巡回指導を実施	39
八幡浜	西予	68	西予食文化伝承動画を制作	39
八幡浜	西予	69	学校給食における地元産小麦の確保に向けて	40
八幡浜	西予	70	地域料理を子どもたちへ伝承	40
八幡浜	西予	71	ぶどうの長梢せん定のポイントを指導	41
八幡浜	西予	72	新規就農者が鳥獣害対策等について学ぶ	41
八幡浜	西予	73	地元農高生の実践技術の習得をサポート	42
八幡浜	西予	74	西予市の若手農家がイチゴの輸出を開始!	42
八幡浜	産地	75	「第6回、第7回南予マルシェ」を八幡浜と宇和島で開催!	43
八幡浜	産地	76	冷蔵富有柿 香港へ輸出	43
八幡浜	産地	77	加工用青ねぎの栽培技術向上に向けた講習会を開催	44
八幡浜	産地	78	フィンガーライムの産地化に向けて宮崎県の栽培状況を調査	44
農産園芸	高度普及	79	県有数の観光施設で「紅い雫」「あまおとめ」の朝採りいちごジュースの提供が開始	45
農産園芸	高度普及	80	首都圏における流通・販売事前調査について	46
農産園芸	高度普及	81	大洲、東温産しょうがが関東市場や県内向けに初出荷	47
農産園芸	企画調整	83	若手職員が地域課題を解決するプロジェクト調査研究の中間実績を発表	48

東予地方局 地域農業育成室

■女性農業指導士が核となり就農初期女性農業者を育成

- 地域農業育成室は12月3日、「女性農業者交流会」を開催し、女性新規就農者6人及び女性農業指導士1人が参加した。
- 交流会は、栽培技術の習得や仲間づくりなどに悩みを抱える女性農業者への指導・支援を女性農業指導士が行うこと、女性農業者のネットワークづくりを進めることを目的に開催。
- 同指導士から、里芋の栽培状況や収穫作業のポイントを学び、意見交換では就農初期の女性農業者が抱える不安に対するアドバイスを受けた。また、「これをきっかけに生産に係る勉強も含め仲間づくりの場として継続して会をもてれば」との提案があり、参加者からの賛同も得られた。
- 今後は、2月下旬頃に参加者のほ場を巡回し、技術交換や仲間づくりを進めていく。



里芋ほ場で作業ポイントを学ぶ



室内で意見交換を実施

■被害が増加するニホンザル対策技術指導を実施

- 地域農業育成室は12月7日、8日に西条市千町、24日に新居浜市別子で、えひめ地域鳥獣管理専門員の活動として、ニホンザルによる被害対策指導を行った。
- 西条市千町地区では、複合柵の設置に加え、被害状況確認による出没ルート予測や小型箱罠設置・管理・運営指導を行った。今回の指導とあわせて、小型箱罠を出没ルート付近に移設した結果、移設3日後にはニホンザル1頭を捕獲した。
- 新居浜市別子地区では、10月に実施した環境点検をもとに、複合柵（ワイヤーメッシュ＋電気柵）の設置指導を行い、設置後は、地区内でのモデルほ場として地域おこし協力隊員が管理する。
- 今後も、各園地へセンサーカメラを設置し、加害獣の出没状況・対策の効果や費用対効果などを総合的に検証し、ニホンザル被害対策の地域への普及を検討する。



複合柵の設置指導



小型箱罠設置を指導



移設指導後に捕獲したサル

■農業経営の強化を目指し「リーダー研修会」を開催

- 地域農業育成室は12月2日、西条地区認定農業者等連絡協議会を支援し、農業経営の強化と次代の担い手の育成方法の習得を目的に、リーダー研修会を開催。同協議会理事、農業指導士ら23人が参加し、熱心に活動発表や講演に耳を傾けた。
- 農業指導士は、女性組織「たべとうみん」の新たな挑戦の事例発表に対して「今後は起業も視野に入れて活動して欲しい」「行政や農協でも女性の頑張りをアピールして欲しい」とメールを送った。
- また、地元の起業家「株式会社クック・チャム」と「にくぶき株式会社」の代表取締役からは、経営者としての理念や成功の秘訣及び従業員の育成方法を学んだ。
- 出席者は、常にチャレンジ精神をもつこと、ビジョン・経営戦略・戦術を明確にすること、経営者の使命として経営学を習得すること、雇用者を育成するために仕事の見える化やサポート体制を整備することなどを学び、経営者としての考え方に賛同するとともに、改めて気を引き締めた。
- 参加した同協議会理事らリーダーには、今後、農業のプロとして就農初期農業者の育成に協力を得ることとしている。



地元の社長からリーダーシップ論を伝授



熱心に受講する参加者

■就農初期農業者等対象に農業機械に関する農業基礎講座を開催

- 地域農業育成室は12月16日、青年農業者協議会会員、農業次世代人材投資事業受給者、その他の就農初期農業者（青年、女性、壮年）19人を対象に、農業基礎講座を開催した。
- ヤンマーアグリジャンパン株式会社の職員より「農業機械のメンテナンスのポイント」について講義を受けた後、「トラクター、管理機の点検整備」の実習を行った。
- また、青年農業者がロープの結び方（南京結び）を実演し、講座参加者がロープワークの実習を行った。
- 参加者からは、「キャブレターの仕組みについても知りたい」など機械整備に関する強い興味がうかがわれた。
- 当室は、今後も農業基礎講座を通して就農間もない農業者を支援する。



点検整備実演の様子



ロープワークの実習

東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班

■地域の特産品をもっと身近に！～さといもクッキング～

- 四国中央農業指導班は、四国中央生活研究協議会が12月6日に四国中央市立寒川小学校で開催した食文化普及講座「さといもクッキング」を支援した。
- 同講座は、えひめ食農教育推進事業の一環で、同校の3年生を対象に実施し、地域の特産品や食文化に詳しい同協議会員が講師となり、地元特産野菜であるさといもの調理を通して食農教育に取り組んだ。
- 講座に参加した児童からは、「意外と簡単だった」「美味しかった、家でも作ってみたい」と大変好評であった。
- 当班は、今後の活動に向けて協議会員と実施内容を打ち合わせ、活動を継続的に支援する。



料理のコツを教える協議会員



さといももちを調理する児童

■四国中央市富郷地域、年末恒例の食文化を後世へ

- 四国中央農業指導班は12月18日、四国中央市富郷地域の「こんにゃくづくり」の技術伝承のため、四国中央生活研究協議会の富郷グループが実施した「こんにゃくづくり活動」の様子を記録・撮影し、同協議会の内外で情報共有することとした。
- 当活動は、えひめ食農教育推進事業の「えひめ食文化普及講座」の一環として実施しており、当日はグループ員と地域外の一般消費者も含め7人が参加。感覚に頼るところが多い灰汁の作り方や生芋との混合割合などを当班が記録し、伝承技術の素材とした。
- 当班では、過疎化が深刻な当地域において、郷土料理等の食文化や地域間交流活動の場としての「こんにゃくづくり」伝承に向け、今後も活動の支援と広報を継続する。



こんにゃくづくりの様子

■攻めの姿勢で有害鳥獣捕獲を！くくりわなを利用した鳥獣害対策講習会を実施

- 四国中央農業指導班は12月23日、四国中央市農業振興課と連携し、土居町上野地区の農業者を対象に、鳥獣害対策講習会を開催した。
- 講習会には地元農業者ら4人が参加し、同地区ではあまり浸透していない「くくりわな」を利用したサルやイノシシ等の捕獲やわなの特性と運用方法等について学習した。
- また、当班担当者が獣道の判別方法や有害鳥獣によるフィールドサインを解説した後、参加者はくくりわなの設置を実習した。
- 当班では今後、電気止め刺し器の作成講座も計画しており、無理なく長く続けられる鳥獣害対策の普及・推進に向けて、集落ぐるみの活動を支援する。



講義を熱心に聞く地元農業者



くくりわなの設置を実践

東予地方局 産地戦略推進室

■ 6次産業化に取り組む農業法人が販促動画を公開

- 産地戦略推進室が撮影・編集に携わった販売促進動画が12月に完成し、農業法人のウェブサイトで公開された。
- この動画は、「コロナ禍での売れる商品づくりプロジェクト」において、当法人が自家産米を用いて製造する餅の販売促進を目的に制作したもの。
- 法人代表は、「農家自らがもち米を栽培し、商品の餅まで一貫して作っていることがよくわかる」「地域特産の商品であることをアピールできる」とPR効果に期待を寄せていた。今後、YouTubeなどSNSを活用するデジタルマーケティングの取組につなげていく。



動画が掲載されたウェブサイト

■ いちご生産者が優良農家の栽培を学ぶ

- 産地戦略推進室はJAと連携し、12月13日にJA周桑いちご青年部、14日にJAえひめ未来いちご女性部を対象とした現地研修を開催した。
- これは、優良農家の技術を学びたいとの生産者の意向を受け実施したもので、当日は延べ15人が参加した。
- 当日は、天敵定着数と病害虫発生状況を確認したほか、その防除方法や草勢を維持するための適切な温度管理などについて、活発な意見交換が行われ、参加者の栽培技術向上への強い意欲がうかがわれた。



優良農家ほ場を調査

東予地方局今治支局 地域農業育成室

■第2回今治地区魅力発信活動(媛かぐや)を開催

- 地域農業育成室は12月22日、高校生の就農意識の向上と今治地域の農業の魅力を発信することを目的に、今治南高校園芸クリエイト科10人を対象に同校日高農場において、県オリジナルさといも品種「媛かぐや」の収穫・調理体験を実施した。
- また、生産者へのインタビューを通して、最新の栽培技術、産地化に向けた取組について学んだ。
- 体験後、生徒から「他のいも類と比べ、掘り取りが簡単」「媛かぐや本来の甘さや食感を楽しむことができ、また食べてみたい」などの意見があった。
- なお、当日の様子は、今治CATVが30分程度の番組に編集後、1か月程度リピート放送するほか、県公式YouTubeチャンネルで配信することとしており、積極的な広報に努め、地域農業の活性化や担い手の確保、育成につなげていく。



生産者へのインタビュー



収穫体験



調理実習に取り組む生徒

■今治地域の青年農業者が有機農業について学ぶ

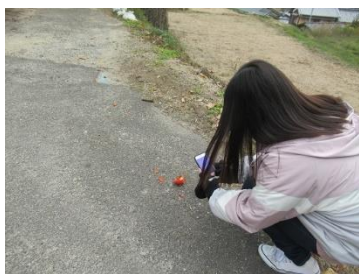
- 地域農業育成室は12月9日、持続可能な農業の推進のため有機農業の研修会を開催し、青年農業者等8人が参加した。
- 当日は、当室が有機農業に関わる時代背景と施策の経緯、総合的病害虫管理(IPM)について講義を行ったほか、岩城駐在からは温州みかんとハウスレモンの有機農業実証試験結果を報告した。参加者からは、具体的な有機農業の防除体系(ICボルドーや石灰硫黄合剤の散布のタイミングや回数等)の質問があった。
- あわせて、GAPの講義も行い、GAPの本質はリスク管理であり、リスクが何かを明らかにしていくことが必要であると説明した。
- 当室は、今後も青年農業者等のニーズに基づき、農業技術の向上等に向けた支援を行う。



IPMの考え方やGAPの認定制度について学ぶ

■岡山理科大学等と連携し今治地域の鳥獣被害調査を実施

- 地域農業育成室では、岡山理科大学獣医学部と連携し、ニホンザルの被害対策を進めている。
- 加害レベルの高いサルが出没している今治市朝倉において、12月16日、20日、21日、27日の4日間、同大学学生とともに出没や被害状況などを調査した。
- また、12月25日には、今治市と連携し、今治市朝倉高台寺集落（R3集落環境点検実施集落）において、ニホンザルの加害状況のアンケート調査を実施した。
- 当室では、引き続き同大学や市と連携しながら、取りまとめた情報を関係機関や地元へ提供し被害防止対策等を進めていく。



サルの食痕を確認（柿）



柿の枝が折れている状況



サルが柿の木に登っている状況
（センサーカメラ）

東予地方局今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班

■大島の小学生が収穫体験

- しまなみ農業指導班は12月9日、今治市吉海町の吉海しんせん市場ふれあい農園で、吉海小学校及び宮窪小学校の3年生30人に、食農教育の一環として野菜の収穫体験等を指導した。
- 当班からは、野菜の収穫方法や良く売れるための荷造方法を説明するとともに、農作物の収穫の喜びと農業への親しみを育み、将来の担い手育成へのきっかけ作りを行った。
- 児童たちは、ほうれん草、キャベツ、ニンジン、大根、ジャガイモを収穫した後、実際に荷造作業を行い、「全部売れるかなあ」と瞳を輝かせながら体験を楽しんだ。

※吉海しんせん市場ふれあい農園は、大島内の農業者が運営する直売組織吉海しんせん市場（会員73人）が小学生の食農教育に役立てるため栽培しているほ場で、小学校の作物の生育観察や植付体験などを行っている。



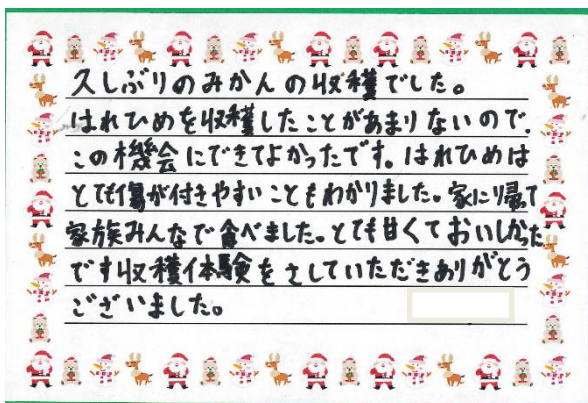
収穫風景



販売用野菜の荷造り風景

■しまなみ農業指導班・岩城駐在所で、岩城中1年生が農業体験（2回目）

- しまなみ農業指導班は12月1日、地元中学生の岩城島特産のかんきつ類の理解を深めるため、「はれひめ」の特選ブランド「瀬戸の晴れ姫」の指定園地で、収穫体験会を開催した。
- 今回は7月の第1回に続き2回目で、岩城中学校1年生11人が参加。
- 当班から収穫ハサミの使い方や収穫時の注意点などについて説明後、収穫体験を行った。
- 生徒らは熱心に収穫作業に取り組み、体験後の学校によるアンケートでは、「(収穫物を)運ぶのは大変だったけど、収穫作業は楽しく、丁寧にみかんを採ることが大切だとわかった」と好評であった。



岩城中学生の感想



体験風景

東予地方局今治支局 産地戦略推進室

■大阪府内の飲食店でしまなみオリーブオイルの評価上々

- 産地戦略推進室は11月30日から12月1日の2日間、大阪府内の飲食店5店を訪問し、本年産のオリーブオイルとオリーブ塩漬けについて、評価確認と営業活動を実施した。
- 訪問先のイタリアン、割烹および居酒屋において、味わいの異なる3種のオイルと塩分濃度を変えたオリーブ塩漬けを試食してもらったところ、和食系飲食店でいずれのオイルも評価が高く、5万円分の商談が成立した。
- イタリアンの人気店「トラットリア・イル・フィオレット」では、当日のランチコースメニューで試験的に利用してもらえることとなったほか、「濃厚なタイプのオイルは小瓶にして香辛料としての利用を検討しては」との提案があったため、生産者と商品化に向けて検討することとした。
- 今回の成果や意見は、オリーブ特産化推進連絡会（局予算事業）で生産者や関係機関と共有し、商品力強化や和食店など新たな販売ターゲットの選定に繋げるとともに、訪問先から紹介のあった県内飲食店への営業活動も進めていきたい。



トラットリア・イル・フィオレットでの評価確認



搾油日、品種の異なる3種の比較

■東京、広島の花屋に今治産花木の評価を確認

- 産地戦略推進室は12月15日、16日、東京都の花屋チェーンである日比谷花壇と広島市で人気の個人店を対象に、今治産花木の利用状況調査と評価確認を行った。
- 日比谷花壇とはオンラインで、広島個人店へは生産者とともに実際に訪問し、今治産花木の利用、流通状況や品質面について聞き取りを行い、その様子を動画に撮影した。
- 各花屋からは、「今治産花木は他産地のものと比較して品質が安定しており利用しやすい。さらに高品質生産を目指してほしい」「いつでも買えるようにもっと安定出荷してほしい」などの意見が出た。
- 今回撮影した動画は、1月11日から14日に開催を予定している花木のせん定、出荷の講習会で情報共有し、消費者目線での生産力強化に生かしていく予定。



広島の花屋への聞き取り



日比谷花壇への聞き取り

中予地方局 地域農業育成室

■研修生らが野菜の天敵利用方法を学ぶ

- 地域農業育成室は12月1日、JAえひめ中央新規就農センター研修生、営農指導員等12人を対象に、施設野菜における天敵の利用方法について講習会を実施した。
- 研修生らは、いちご、なす、きゅうり、トマトに利用する天敵と対象害虫、実証結果について学んだ。
- 研修生からは、「天敵の寿命はどのくらいなのか」「同時に2種類の天敵を放飼しても問題はないのか」等多くの質問があり、関心の高さがうかがえた。
- 天敵の利用により薬剤抵抗性の回避や農薬の使用削減が見込まれることから、当室では天敵利用技術の普及を進めることとしている。



天敵製剤の使用方法を学ぶ



熱心に講習を受ける参加者

■なす天敵利用に向けて

- 地域農業育成室は12月9日、栽培が終了したなす施設から、新たに栽培を開始したなす施設へ土着天敵の移動を行い、天敵の有効活用を行った。
- また、12月21日にはJAえひめ中央麻生支所で開催された「伊予ナス栽培講習会」において、なす栽培における天敵利用技術の講習を行った。
- 当日は、生産者16人が出席し、施設・露地栽培における天敵利用方法について学び、施設栽培の希望者には、当室が設置している天敵温存ハウスで飼育・増殖している土着天敵を配布することとした。
- 当室では引き続き、関係機関と連携し、なす天敵利用技術の普及に努める。



栽培が終了した施設の土着天敵を採取



伊予ナス栽培講習会

■果実品評会へ果実を出品し、栽培技術及び品質の向上につなげる

- 地域農業育成室は12月4日、松山市青年農業者連絡協議会が主催する「愛媛果試第28号」品評会にて、青年農業者13人の果実を審査するなど、会の運営を支援した。
- 本品評会は、同協議会員が栽培した「愛媛果試第28号」の外観や糖度などの品質をJAえひめ中央の営農指導員や当室の普及指導員が審査・評価を行うことで、今後の栽培管理や果実品質の向上につなげるもの。
- 審査後は協議会員同士でお互いの果実を品評し、優良な果実を見極める目を養うとともに、審査員との視点の違い等について意見交換を行った。出品した協議会員からは「1年間の成果を指導員らに見てもらいたい良い機会だった。今後も会員同士で競い合いたい」との声が上がった。
- 当室では、今後も日々の普及活動を通して協議会活動の活性化を図るとともに個々の経営発展に努める。



果実を評価する審査員



協議会員による審査

■講義を通して、就農に必要な知識・技術の習得を支援

- 地域農業育成室及び産地戦略推進室は12月15日、松山市が主催する松山市担い手農家育成研修で、就農希望者6人の技術習得を支援した。
- これは、就農を希望する市民を対象に、実習と座学により就農に必要な知識や技術の習得を支援する研修制度の一環。
- 当日は、当室の職員が「野菜の病害虫と生理障害の診断と対策」「かんきつの病害虫の特徴と防除」「経営管理の基本」について講義した。
- 当室では今後も就農相談カード等を活用し、関係機関と情報共有を図りながら就農・定着を支援する。



講義による就農支援

■認定農業者に鳥獣害対策指導を行う

○地域農業育成室は11月24日、東温市認定農業者連絡協議会員13人を対象に鳥獣被害対策講習を行った。

○講習は農作物被害の多いイノシシをテーマに行い、捕獲・緩衝帯・侵入防止を組み合わせた「総合的な対策」の方法と、各種機材の展示・実演を交えた説明を行い、知識や技術を効果的に習得できるよう工夫した。今回は、わなの仕掛けや銃に関する展示に注目が集まった。

○当室では、鳥獣被害対策に必要な機材を自作しているため、常時展示可能であることが強みであり、実物に触れる機会を作ることで、農家が被害対策に取り組みやすくなっている。今後もこれらの機材を有効活用し鳥獣被害対策技術の普及を行っていく。



機材を展示した講習会

■若手普及職員が、各地区青年農業者定例会で「農福連携」の啓発活動

○地域農業育成室は11月15日、25日、12月1日、3日の4日間、若手職員が、各地区で行われた青年農業者協議会の定例会等で「農福連携」の啓発活動を行った。

○当日は、県が発行している「農福連携推進マニュアル」のほか、「農福連携に取り組んでみませんか？」と題したスライドや「管内の農福連携現場の様子」「今後依頼が見込まれる作業」の動画を用いて説明を行った。

○参加した協議会員からは「普段の作業現場となんら変わらない」「障がいのある方が一生懸命働いている様子がよく分かった」といった感想があり、「農福連携を実践している人の話を聞いてみたい」「実際に農福連携の現場を見てみたい」といった要望も上がった。

○当室では、今回の感想や要望を踏まえ、農福連携に関心を示した青年農業者や研修生を集めた「農作業体験マッチング会」を開催し、労働力確保と施設利用者の就労機会の創出につなげていく。



松山地区青年農業者連絡協議会理事会



東温市青年農業者連絡協議会定例会



松山市青年農業者連絡協議会北条支部定例会

■「農福連携」をきっかけに独立就農を目指して施設外支援へ

- 地域農業育成室が「農作業体験マッチング」を行った福祉事業所(以下、事業所)の利用者1人が、マッチング相手の米農家で独立就農を目指した施設外支援へ移行した。
- これは、同マッチング以降、両者間で米の出荷調製作業の受委託契約が結ばれ、作業を続ける中で同農家から事業所へ職員募集の声掛けがあったことから、利用者が週に3日、1日2時間ずつの施設外支援を行うようになったもので、現在は、トラクターの練習を行っており、順調にいけば来春から職員として雇用される予定である。
- 今回のマッチングでは、同農家と事業所間に単なる作業受委託だけでなく「+α」な関係が生まれており、同農家から稲わらやもみ殻、糠などが事業所に無償で提供され、それらを利用した野菜作りの指導も行われている。また来年の春には、事業所が同農家から土地を借りて新たに米作りも開始する予定。
- また、同農家は、別の福祉事業所とも同じ作業で受委託契約を結んでおり、こちらの事業所では、たまねぎ、はくさい、ブロッコリー、キャベツ、レタスなどで新たに農業生産活動を行うようになった。
- 両事業所のスタッフから「本当にいい農家さんを紹介してくれた」「農作業を行うようになって笑わなかった利用者が笑うようになった」、同農家からは「いい事業所を紹介してもらえて、今まで時間ばかりかかっていた作業をしなくてすむようになった。利用者さんに出来る限り恩返ししたい」との良好な関係が構築されている。
- 当室では、今後も新たなマッチングに向け、関係機関及び福祉事業所と連携しながら農福連携を推進する。



トラクターの練習と見守る農家



来春は何枚か田を任される予定



農家の指導を受けながら新たな野菜作りに挑戦中

■令和3年度農福連携担当者会の開催

- 地域農業育成室は12月24日、中予地方局6階会議室で「令和3年度農福連携担当者会」を開催し、各市町・JA・地域福祉課職員等16人が出席した。
- 農政課農地・担い手対策室より、「県内の農福連携の取組状況」や農福連携関係事業の説明、当室からは、実際の農福連携の現場の様子や、今後依頼が見込まれる農作業について動画で説明した後、JAを窓口とした作業受託システムの運用について説明を行った。
- また、各市町担当者が、担当地区のこれまでの農福連携の取組と今後の意向について報告を行い、「農家はまだ農福連携の予備知識がない」「農福連携の理解促進の部分がまだ十分でない」「農家と事業所がお互いの理解を深めるような取組を浸透する必要がある」といった感想や要望があるなど積極的な意見交換が行われた。
- 当室では、現在、中予地方局管内の全福祉事業所152施設（就労継続支援A型48施設、B型104施設）に対して、農業に関する意向調査アンケートを実施しており、その結果を基に、JA・市町・地域福祉課と連携しながら、農福連携の推進を図る。



動画を使った農福連携の啓発



JA・市町・地域福祉課との意見交換

中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班

■媛かぐや販売促進活動

- 伊予農業指導班は12月10日、ファーマーズマーケットいよっころにて、農林水産研究所と連携して、媛かぐやの販売促進活動を実施した。
- 販売促進の一環で、媛かぐやの煮物の試食を実施し、70人の来店者に味わってもらった。
- 「ほくほくしておいしい」「甘味があって、食味がいい」等の高評価で、1時間程度のPRで20本が購入された。
- 当班では、今後も、媛かぐやPRや栽培拡大等の支援を実施していく。



媛かぐやの試食によるPR



媛かぐや販売状況

■中山栗せん定講習会を開催

- 伊予農業指導班では12月3、4日、伊予市中山町モデル園にて、中山町農業者協議会（認定農業者）、JAえひめ中央と連携して、せん定講習会を4か所で開催し、70人の栗栽培農家が参加した。
- 当日は、昨年度の地方局事業に引き続き、講師に西予市城川町の西山良幸氏を招いて、受講者は低樹高栽培に向けたせん定方法の指導を受けた。
- 当班では、今後も、講習会で実施した低樹高栽培の普及拡大を行っていく。



カットバックせん定を熱心に学ぶ

■伊予地区一次産業女子グループ「葉れるや」が撮影方法を学ぶ！！

- 伊予農業指導班は11月30日、伊予地区一次産業女子グループ「葉れるや」7人を対象にスマートフォンを使った写真の撮影研修会を行った。
- 当研修会は、コロナ禍で消費者との関わりが少ない中、SNS等で情報を発信するために、より魅力的に農産物を撮影する方法を学びたいとメンバーが希望し、実現した。
- 当日は、過去に西条市で広報を担当しデザイン事務所を設立した講師から、座学での講義のほか、メンバーが持参した農産物を使って撮影方法を学んだ。
- 参加したメンバーからは、「野菜の置き方で主役になるものが変わることが分かった」などと好評で、今後、各自のSNSを投稿する際には「#葉れるや」をタグ付け、グループをPRすることとした。
- 新たに1人が「葉れるや」に加入し、10人で活動していく。



撮影方法を学ぶ葉れるやメンバー



魅力的に撮影された農産物

■認定農業者、SDGsを学ぶ

- 伊予地区農業経営者連合協議会、あいネットワーク、伊予地区家族経営協定締結協議会は12月15日、ウェルピア伊予で、「伊予地区農業研修会」を開催し認定農業者、家族経営協定締結者等42人が参加した。
- 研修会では、県農林水産部農業振興局の牧之瀬局長を招き、県内農業でのSDGsの取組事例の紹介とその課題、今後の展開方向について提起された。
- 愛媛県の自給率について、カロリーベースでは低い、生産額ベースでは100%を超えていることに関して質問があり、収益性の高い果樹等が県内では生産されている旨回答があった。日々の農業経営とは別の視点で県内農業について再認識する機会となった。
- 伊予農業指導班からは、全国農業担い手サミットin茨城のオンラインでの視聴方法について情報提供を行った。



SDGsを研修

■砥部の農産物で小学生が“ふるさとごはんづくり”

- 伊予農業指導班は12月11日、砥部町生活研究協議会（日野林アユ子会長）と連携し、砥部町ひろた交流センターで食農教育推進事業に係る「食文化普及講座」を開催した。
- 当日は、協議会員4人が講師となって、砥部町内から募集した小学生10人と交流センターの職員が砥部町の農産物を使った「炊き込みムカゴご飯」、「豚汁」、「サツマイモのおやつ（スイートポテト、蒸しパン）」等の5品を調理し、試食を行った。
- 参加した児童は、ムカゴや手作り味噌に驚きながらも、美味しいとおかわりする子が続出。県外から来ている山村留学生は、長期の休みに実家ではスナック菓子を食することが多く、体に悪いかなと健康を気にする様子もうかがえ、手作りのおやつを嬉しそうに持ち帰った。
- 会員は、この講座の必要性和やりがいを強く感じており、町の関係者からも、さらなる活動の発展と普及を望む声が聞かれた。



調理に挑戦する児童



参加者による試食

■伊予地区生活研究協議会がこんにやく名人の技を継承！

- 伊予農業指導班は12月3日、砥部町高市で、「えひめ食農教育推進事業」に係るえひめ食文化保存継承活動として、木草灰の灰汁を使った「こんにやく作り」講習会を開催した。
- 当日は、砥部町生活研究協議会のOBで地元のこんにやく名人を講師に迎え、伊予管内の当協議会員16人が参加。
- 手作りこんにやくには、一般的には失敗の少ない炭酸ナトリウムを凝固剤として使用する場合が多いが、今回は雑木の灰からとった灰汁を使って、自然なこんにやく作りを体験した。
- ほとんどの会員が灰汁で作るのは初めてとあって、灰汁を直接味わって色と食感の違いやこねる感触を確認しながら作ったが、出来上がったこんにやくは、薬品臭がなく非常に美味しいと好評で、今後も地域の名人の技を受け継いで広めたいと意欲を見せていた。
- こんにやく作りの様子を撮影した動画は、当協議会のYouTubeで発信する予定。



こんにやく芋をミキサーで攪拌



完成したこんにやく

中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班

■ピーマン収穫作業の労力補完体制の導入検討

- 久万高原農業指導班は12月16日、JA松山市久万高原ピーマン実績検討会において、ピーマン収穫作業の労力補完体制導入を提案した。
- ピーマン農家の高齢化に伴い、栽培期間中の体調不良等により収穫作業や規模拡大等が困難となることが懸念されるため、当班のほ場で今年度試験的に行った農福連携の取組や、農業に特化したアルバイトマッチングサービス等を活用した労力補完体制の導入について説明した。
- 協議の結果、次年度の当ピーマン部会の組織活動として位置づけ、労力補完体制の導入推進を図ることとした。
- 当班では、ピーマン収穫作業における労力補完体制の確立に向け、今後も部会組織活動を支援していく。



久万高原ピーマン実績検討会

■直販所出荷者に向けた有機栽培の推進と漬物向け野菜の振興を目指して

- 久万高原農業指導班は12月2日、久万高原町内で有機農業講座を開催し、道の駅（天空の郷さんさん、みかわ）出荷者等32人が参加。
- 当班から、技術普及グループにおける有機栽培の実証結果、局予算事業「久万高原の漬物向け野菜産地再興事業」で推進している漬物向け野菜の栽培のポイントを指導したほか、種苗会社からはタマネギ・ニンジン等春野菜の有機栽培について説明。
- 参加者からは、野菜の病害虫対策や、確実に発芽させる種まきの方法等について活発な質問があるなど関心は高く、当班は今後も有機栽培による安全・安心な農作物の出荷と漬物野菜の振興を支援する。



熱心に受講する参加者

■農業公園研修生らが農業簿記の基礎を学ぶ

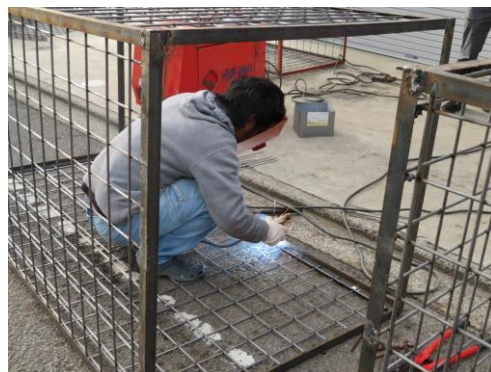
- 久万高原農業指導班は、久万農業公園の研修生及び今年度就農した新規就農者を対象に農業簿記講座を実施した。
- 11月16日から4回に渡り、中予地方局地域農業育成室職員を講師に、農業簿記の基礎から農業簿記ソフトの操作の仕方などを学んでおり、年明けにも1回開催する予定。
- 新規就農者からは、「就農1年目なので何から取り組めばよいかわからなかったのととても参考になる」「自分が経営者なんだという実感が湧いた」などの声が聞かれた。
- 当班は、今後も研修生の技術・経営力向上に向けた支援を行っていく。



農業簿記について学ぶ研修生ら

■今年もやります！青年農業者でイノシシおり製作

- 久万高原農業指導班が活動支援している上浮穴地区青年農業者連絡協議会は、12月21、22日、久万高原町内でイノシシおりの製作を行った。
- これは、年々被害が増加するイノシシ対策として、昨年から同協議会が実施しているもので、協議会メンバー9人が集まり、資材の切り出しや溶接作業等を行った。
- 今年度は4基製作し、被害の多い水田や畑に設置し、イノシシを捕獲する予定。
- メンバーの中には狩猟免許取得に興味のある者もあり、当班は今後も研修や情報提供等を行って鳥獣被害軽減に向けた取組を支援する。



手際よくおりを製作するメンバー

■農業女子が大阪で就農相談に対応

- 久万高原農業指導班が活動を支援している農業女子（トマト農家）が12月4日、大阪府で開催された「愛あるえひめ暮らしフェア in 大阪」において就農相談に対応した。
- 会場内の「一次産業女子ネットワーク『さくらひめ』」のブースで来場者に対し、県内の農業や暮らしについて自分の体験を交えて説明。
- 彼女自身も3年前、関西圏から夫と共に移住し、就農した経緯があるため、「相談者の心境や不安なことがわかる」と親身に応じていた。
- その後、ブースを訪れた人の中2人が、12月22日に大阪府から久万高原町を実際に訪れ、就農までの経緯や農地の確保方法、地域との関わり方など具体的な取組を相談した。
- 当班は今後も農業女子の活動支援を行っていく。



相談者(手前)の質問に応じる農業女子

■青年農業者が高校生に農業の魅力語る ～農業大学校就農啓発講座にて～

- 久万高原農業指導班が活動を支援している久万高原町青年農業者連絡協議会員2人が、12月18日に農業大学校で開催された「就農啓発講座」のゲストスピーカーとして招かれ、農業に対する熱い思いを語った。
- 当日は、県下の農業に興味のある高校生等約20人を前に、就農のきっかけや現在の農業経営の様子を動画や写真などを使ってわかりやすく説明。
- 意見交換では、高校生から「農地をどうやって見つけたのか」との質問に、「日頃の地元との付き合いやコミュニケーションを大切にしていた結果、良い農地を取得できた」と答えていた。
- 最後に、高校生らに「生きているこの瞬間を大切に、楽しんで」、「自分がどう生きたいか将来をじっくり考えて欲しい」とエールを送った。



高校生を前に自身の体験などを話す青年農業者

中予地方局 産地戦略推進室

■中予のパクチーの追跡調査を実施

- 産地戦略推進室は12月1日から1ヶ月間、JAえひめ中央「太陽市」と連携し、中予産パクチーのPRと追跡調査を行っている。
- これは、販売しているパクチーの袋に貼付したQRコードを読み取り、アンケートに答えてもらう事で、どのような方が購入し、どのように利用をしているのか等の消費動向を把握しようというもので、併せて、パクチーの料理写真を添付した方の中から抽選で10人にサンバルソースをプレゼントする企画も実施している。
- また、追跡調査に先駆けて11月29日にテレビ愛媛の情報番組「EBCライブニュース」内の「ベジ得」のコーナーで、パクチーとそれを活用した料理を紹介するとともに、年内いっぱいFacebookとInstagramに産地紹介や追跡調査の広告を流し、認知度向上と消費促進を図っている。
- 当室では、今回の調査結果の分析を進め、パクチーの新たな販路の開拓や認知度向上、家庭での利用促進につなげる。



陳列されたパクチー

■ キッチンカーでのパクチーカレーの販売で東温パクチーをPR

- 産地戦略推進室は12月5日と6日の2日間、JAえひめ中央太陽市前広場で、パクチー生産農家所有のキッチンカーで東温パクチーグリーンカレー販売を行い、東温パクチーのPRを行った。
- カレー購入者には、パクチー産地紹介チラシを配布し、愛媛でも年間を通してパクチーが生産されていることを紹介し、地元産の良さをアピールした。また、QRコードによるアンケートで、家庭でのパクチーの利用シチュエーション等の把握に努めた。
- アンケートでは「東温のパクチーは、新鮮で香りが強く、根が付いていてうれしい」「年中売っているようにしてほしい」「家で作れるようにカレーセットとして、この味を販売してほしい」など多くの消費者の声を聞くことができた。
- 当室では引き続き、パクチーの生産振興や販路拡大、認知度向上対策を進める。



店舗前でのパクチーカレーの販売

■「甘平」裂果多発園で土壤改良の効果を確認

- 産地戦略推進室は、「甘平」の裂果を引き起こす要因としてほ場の土質や根域分布に着目し、裂果が多い傾向が見られる「土壤の保水力が低い」「根域の分布が浅い」「水田転換園でグライ層により根域が浅い」など、それぞれ異なる特徴を持った3園地に実証ほを設置。堆肥の地中施用や暗渠の設置など、園地条件に合わせた土壤改良を3月と5月に実施した。
- この土壤改良の効果を確認するため、11～12月に地中の様子を確認したところ、下層の根の増加やグライ層の消失などの改善が見られた。また、2園地では昨年度より裂果率が減少し、処理の効果が見られたが、夏季に十分なかん水が出来なかった園地では、裂果率の改善が見られなかったことから、土壤改良は裂果を軽減するが、裂果の根幹は、かん水管理にあるものと推測される。
- 当室では、土壤条件は園地によって異なり、土壤改良方法も異なると考えられることから、農家が自身の園地に適した改善方法を判断できるよう情報を取りまとめ、今後の栽培指導に生かしていく。



堆肥の地中施用を実施



堆肥の地中施用により細根が発達

南予地方局 地域農業育成室

■次年度の安定生産に向けた加工用びわ・かきの栽培指導

- 地域農業育成室は、JAえひめ南と連携して、果実の連年結果と作業性向上を目的とした栽培講習会を開催した。
- 12月7日は、宇和島市西三浦で5人に対し、びわ花房の一部を切り取る摘蕾を指導。次期作は例年に比べ花房が少ない傾向にあるため、蕾をやや多く残すとともに、樹冠外周部など厳寒期に低温被害を受けやすい部分は、遅く咲く花を多く残し、収量を確保するよう実演を交え詳しく指導した。
- 27日は、同市柿原及び三間で19人に市田柿等のせん定を指導。樹の成長に伴い樹容積が拡大してきたため、密植園では作業効率を上げるとともに、下枝が日照不足にならないよう、縮伐の実施を呼び掛けた。
- 当室では、栽培経験の少ない農業者や樹齢等園地の状況に応じたきめ細かな指導を行い、落葉果樹の安定出荷を通じた農家所得の向上を図る。



びわの摘蕾



かきのせん定

■集落営農の経営力向上に向けて！

- 地域農業育成室は12月10日、17日の両日、農地集積による儲かる水田農業を推進するため、宇和島市三間町の農事組合法人黒川、これよしの2法人と、法人設立を目指す音地集落営農組合を対象に、中小企業診断士を交え、経営状況や今後の事業方針などの聞き取りを行った。
- 中小企業診断士から、2法人には今年設立であることから1期目の運営方法や会計書類の作成について、集落営農組織には法人化に向けた集落の合意形成やビジネスモデルの作成などのアドバイスを受け、当室から、収益性の高いさといもや市田柿の導入などによって安定した経営を行うよう助言した。



音地集落営農組合の聞き取り

■さといもの土入れ作業の実演

- 地域農業育成室は12月15日、農林水産研究所と連携し、宇和島市三間町でハイクリアランス乗用管理機を使ったさといもの土入れ作業の実演会を開催した。
- この作業は子芋・孫芋の肥大促進のため、当地域では一般的に6月に一輪管理機を用いて行うが、粘質土壌であることから、土の跳ね上げが上手くいかないことがある。そこで、馬力の大きな乗用管理機で、冬場の踏み固められた土壌の土入れが可能か実演した。
- 当日は、ほ場を往復して作業することで、畝の上に7cm程度の土を被せることができ、参加した農業者は「この踏み固められた土を跳ね上げられるのなら、6月なら安心して使える」と手ごたえを感じていた。
- また、実演会は種芋ほ場で実施したので、当室では、種芋の越冬対策としての効果も検証し、作業の省力化に向け検討を進める。



実演機の説明

※ハイクリアランス乗用管理機：走行車体の地上高を大きくし、作物を跨いだ状態で畝に沿って走行することができる乗用管理機

■新規就農者（重点指導対象者）に対する巡回指導を実施

- 地域農業育成室は12月15日、「農業次世代人材投資事業（経営開始型）」の受給者で当室が選定した重点指導対象者6人のうち、かんきつを栽培する3人の巡回指導を行った。
- 当日は、宇和島市、JAえひめ南、当室の担当者が、園地の状況を確認しながら、選定基準とした売上目標の未達成原因の明確化と今後の対応方針等を検討するため営農状況などを聞き取った。
- 対象者からは、苗木が獣害によって毎年枯死してしまうこと、苗木管理の知識・技術が不十分で生育が遅れていること、密植で果実品質が悪いこと等が各自の課題として確認できたことから、今後は生育ステージごとの実技指導や資料配布などきめ細かな個別指導を行うこととした。
- 当室は、引き続き、管内の新規就農者が安定した経営を行えるよう支援していく。



害獣による苗木の被害



「清見」の密植園地

■ドローン空撮による新たな普及指導活動方法を検討

- 地域農業育成室は12月20日、南予地方局、八幡浜支局管内の普及指導員ら17人を対象にドローン空撮勉強会を開催した。
- 近年、ドローンを活用した生育診断や病害虫防除などデジタル技術を活用した効率の高い営農が展開されつつあるが、今回は普及指導活動を効率的かつ効果的に行うための一手法として、ドローンの有効活用を検討することを目的に開催。
- 当日は、航空測量システムを活用して土地改良施設等の情報管理を行っている八幡浜支局農村整備第二課の職員を講師に、ドローンで撮影した画像を編集ソフトで処理することで、タブレット上の地図アプリから確認できることや、園地情報に合わせて色分け分類することで、効率的に園地情報を管理できることなどを、実際にパソコンを使って実習した。
- 参加者からは「果樹の縮・間伐時に樹冠面積が容易に計算できそう」「改植事業の現地確認にも使えそう」などの声上がり、空撮画像の有効活用法について意見交換した。
- 当室は、普及指導活動におけるデジタル技術の導入を進めるとともに、引き続き、農村整備課と連携し農業・農村における課題解決に取り組む。



編集ソフトで空撮画像を合成処理

■温州みかん高品質栽培のノウハウを若手職員へ

- 地域農業育成室は12月23日、南予地方局、八幡浜支局管内の若手普及指導員ら20人を対象に、かんきつ類の知識や知見を深めることを目的にみかん研究所で研修会を開催した。
- 当日は、同所職員によるかんきつ類の育種や高品質栽培に向けた講話の後、静岡、和歌山、長崎など全国の銘柄産地12種類の温州みかんの食味調査などを行った。
- 参加者からは「愛媛が柑橘王国である理由や産地振興の上で研究と普及の連携の必要性をよく理解できた」「全国各地のみかんの食べ比べは初めてだったので、愛媛の味を知る良い機会になった」などの意見があった。
- 今後も両室では、果樹のみならず野菜や作物においても研修の場を設け、若手普及指導員の資質向上を図ることとしている。



みかん研究所職員による講話



温州みかんの食味調査

南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班

■花粉キウイフルーツの防寒対策を行う

- 鬼北農業指導班は12月10日、松野町、果樹研究センターと連携して、花粉キウイフルーツモデル園3ヶ所の防寒対策を実施した。
- 昨年度は冬季のビニールハウス内の温度上昇により樹液が流動し、その後の寒波によって2ヶ所のモデル園で凍害が発生し、2年生株の一部は主幹部が被害を受け、枯死する株も見られた。
- そこで、今年度はすべての株の主幹部全体を反射資材で被覆し、主幹部の温度上昇を防ぐことで、樹液が流動しないよう対策を行った。
- また、当班では、ハウス内気温が上昇しないよう天窗の設置や、寒波の程度によっては暖房機を入れるなど、複合的な対策を実施するよう指導することとしている。



反射資材による被覆

■管内優良事例を学ぶ。～鬼北地区認定農業者等連絡協議会～

- 鬼北農業指導班は12月7日、松野町、鬼北町と連携して、鬼北地区認定農業者等連絡協議会（会長：加賀田幸二）及び青年部（部長：毛利憲幸）28人参加のもと管内優良事例現地研修を実施した。
- 会員らの中には、施設野菜や農家民宿など多角的な経営を目指す者も出てきていることから、管内の特徴的な事例を紹介することを目的に開催。
- 当日は、当班の実証ほ場において、無人航空機（ドローン）による液体散布などを実演した後、松野町でアーチパイプハウスの内部にタイバー（逆T）を設置した機能性向上ハウス、鬼北町で多角的経営を目指したゲストハウスや管内初導入の密苗田植機、夏場も涼しい山間立地鶏舎での「鬼北熟成きじ」の飼養状況を視察した。
- 参加者からは、「管内で新たな取組が数多くあり参考になった」との声があり、特に機能性向上ハウスは風雪害に強く、トマト、きゅうり、なす、ピーマンなど主要野菜の誘引に万遍なく対応できるなど、興味を示した。
- 当班では、工夫した施設や先進的な機械導入を契機として、優良経営モデル農家の誕生を後押しする。



ドローン液体散布確認



内部機能性向上ハウス見学



ゲストハウス見学

■鬼北地区の水田活用について検討会を開催

- 鬼北農業指導班は12月2日、9日の両日、鬼北町と連携し、令和3年度「水田農業生産力強化支援事業」の実施主体である農業者2人を対象に、水田の利用調整について検討会を開催した。
- 当日は、愛媛大学農学部の特任准教授を講師に「稲作・水田農業の現状と食」と題した講話や西予市における水田活用の事例紹介を踏まえ、農地の利用率と収益向上について意見交換した。
- 参加者からは「現在の国の補助制度は将来も続くのか」「早期米栽培が定着している鬼北地域での二毛作は可能か」などの質問や「スムーズに農地の流動化に取り組めるシステムづくりが必要になっている」などの意見がでた。
- 当班では、引き続き関係機関との連携を図り、鬼北地区の水田の有効活用と農業者の収益向上に向けサポートしていく。



水田活用検討会

■道の駅森の三角ぼうしの「ひめの凩」特設販売コーナーが人気

- 鬼北農業指導班は、ひめの凩の販売開始にあわせ、道の駅森の三角ぼうしと連携し「ひめの凩」のPOPやのぼり旗を使ったPRに取り組んでいる。
- この道の駅では、消費者に人気のサイズである「ハイクオリティー5kg」「プレミアム3kg」の販売に取り組んでおり、販売担当者は「ひめの凩への問い合わせも多く、売り上げも好調」生産者は「今年は品質の良いお米ができた。消費者に手に取ってもらいやすいサイズ感の商品を増やしている」と出荷に意欲的である。
- 当班では、「ひめの凩」の生産拡大につなげるため、引き続きPRや食味会等を通じたファンづくりを進める。



「ひめの凩」特設コーナー

南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班

■愛南地区認定農業者、青年農業者が合同現地研修会開催

- 愛南農業指導班は12月7日、技術向上と組織間の連携強化を目的に、認定農業者協議会と青年農業者協議会が合同で開催した現地研修会を支援した。
- 講師には、会員から要望があったことなどから、先月のリモート研修で事例紹介した鹿児島県で不知火の高品質多収栽培を実践している若手農家を招へい。
- 当日は会員23人が出席し、「不知火」、「ポンカン」、「河内晩柑」、「甘夏」の各園地を巡回し、講師から直接、かんきつの植物生理に応じた施肥や樹体管理について指導を受け、きめ細やかな観察や肥培管理の重要性を学んだ。
- 参加者からは、「かんきつの樹体に応じた施肥の重要性が理解できた」「今度は鹿児島県の園地を見に行きたい」との積極的な感想が聞かれるなど有意義な研修会となった。
- 当班では、今後も組織活動を支援し、地域農業の担い手となる認定農業者や青年農業者の育成を図る。



栽培園地での管理指導



講師との意見交換

■「河内晩柑」の高樹高化の原因確認

- 愛南農業指導班は12月13日、「河内晩柑」の高樹高化の実態を把握するため、JAえひめ南と連携して、自根（栽培品種の根）の発生状況を調査した。
- 一般的にかんきつ類は、樹をコンパクトにし、果実品質や収量を向上させるため、カラタチ等を台木に接ぎ木した苗で栽培しているが、いくつかの園地に自根発生がみられたことから、管内の8園地を調査。
- 今回、確認した自根発生樹は樹容積が大きく、通常の樹の2倍程度となっており、自根の発生率が多い園で65%を超え、調査園全体では平均20%となり、低樹高化への大きな課題を確認することができた。
- 同行したJA指導員は、「自根があることは知っていたが、ここまで多いとは思わなかった」と話しており、当班は、今後もJAと連携し自根対策に取り組み、「河内晩柑」の低樹高化による作業効率化を進めることとしている。



カラタチの根

自根



左の樹が通常、右の樹が自根発生樹

■ひめの凩の食味向上、高収益野菜の導入について学ぶ

- 愛南農業指導班は12月15日、南宇和地区営農指導連絡推進会議作物園芸部会10人を対象に、県育成品種「ひめの凩」の推進や水田を活用した高収益野菜生産について学ぶため、農林水産研究所で研修会を開催した。
- 当日は同研究所において、「ひめの凩」の食味向上のための栽培ポイントや販売戦略、さといも導入の留意点と省力生産技術、リーフレタスマルチ畝連続利用栽培等についての説明を受けた。
- 出席者からは、「ひめの凩」のいもち病の耐病性や高価格販売へ向けた対応、さといもの耐水性や疫病への対応策、リーフレタスの労働生産性や生産コスト等、数多くの質問が出され、管内への導入に向け活発な意見が交わされた。
- 当班では、今後も同部会と連携し、地域農業の活性化や栽培技術向上に向けて支援を行う。



「ひめの凩」について説明を受ける同部会員



リーフレタスの場内視察

南予地方局 産地戦略推進室

■南予の農産物のマッチング交流会を開催

- 南予地方局及び八幡浜支局産地戦略推進室は12月1日、「南予の農産物販売促進事業」の一環で「農産物等販売マッチング交流会」（県歴史文化博物館）を開催し、農業者や関係者計37人が出席した。新たな販路を探している農業者と、ECサイトを活用し他の農業者の商品販売も行う「地域商社的農業者」を結び付け、新たな販売モデルの構築に繋げるのが狙い。
- 交流会では、宇和島市産のえごまを搾った「えごま油」や、鬼北町産のキジのエキスが入った「きじ出汁しょう油」、松野町産の「紅茶」などこだわり農産物や加工品13品が紹介され、販路拡大に意欲的な農業者と「地域商社的農業者」が今後の取引に向けた活発な商談を行った。
- また当日は、(株)ミーティン・クラフトの池田広美氏による「コロナ禍における市場の動向とECサイトを活用した販売戦略」と題した講演や、「地域商社的農業者」による活動事例の発表等も実施。両室では今回の交流会で得られた農業者間の繋がりを活かし、さらに南予の農産物の販売拡大を推進する。



「地域商社的農業者」による事例発表



マッチング交流会での商談

■北宇和高校生が開発した「うめジャム」をお披露目

- 産地戦略推進室は12月17日、昨年度から北宇和高校生産食品科の生徒が開発を進めてきた「うめジャム」の完成披露会を松野町で開催した。
- 当室では、「新たな果樹産地づくり推進事業」の一環で松野町のうめを使った商品開発に取り組み、昨年7月から町や町農林公社などと連携し、同校の生徒を対象に加工や栽培、収穫に関する研修会を開催。生徒らのうめへの理解を深め、開発を支援してきた。
- 当日は松野町長をはじめ、関係者が出席してうめジャムを試食。「色合いにつやがあって美しく、うめの酸味と甘みのバランスが良い」「市販されている高級なジャムと比べても遜色ない」などの感想が寄せられ、今後の販売方法についても積極的な提案や助言が行われた。
- 今回完成したうめジャムは、来年2月開催の「南予マルシェ」（宇和島恵美須町商店街）で販売を予定しており、当室では引き続き販売面の支援やSNS等による情報発信を通じ、松野のうめのPRに繋げることとしている。



「うめジャム」完成披露会



北宇和高校生による取組報告



完成した「うめジャム」

■愛南町でアボカドの冬季管理講習会を開催

- 産地戦略推進室は12月20日、NPO法人ハート in ハートなんぐん市場（理事長 吉田良香）と連携し、愛南町平山地区のアボカド園地で冬季管理講習会を開催。生産者や関係機関等7人（うち新規栽培者2人）が出席した。
- 当日は、NPO法人から幼木の防寒対策や肥培管理等について説明後、当室から主要品種の収量性や耐寒性の違い、寒害の程度と回復の経過等について昨年からの調査結果をもとに説明。生産者からは、自分の園地の生育状況を踏まえた今後の作業のポイントや、成園までの基本管理等について活発な質問が出された。
- 10月に苗を定植した新規栽培者の園地は、現在、概ね順調に推移しており、当室では引き続き関係機関と連携し、個別巡回指導によるフォローアップを通じて早期成園化と安定生産に取り組むこととしている。



品種の違いによる収量性と耐寒性について説明

■うめの連年安定生産に向け開花・結実状況調査を開始

- 産地戦略推進室は12月24日、松野町のうめの連年安定生産に向け、関係団体と連携し、うめの開花・結実状況調査を開始した。
- 松野町は県内有数のうめ産地であるが、年次により生産量の変動が大きいことが課題となっており、当室では生産者への栽培管理状況の聞き取りや、産地全域を対象とした土壌診断の実施など要因の解明と対策を進めている。この中で、開花時期の早晩や栽培品種と受粉用品種の開花時期のずれが着果不良の一因と考えられることから、松野町梅振興会や町農林公社に働きかけ、継続的な開花状況調査を実施することにしたもの。
- この日は町内の園地4箇所を巡回し、いずれの地点も未開花であることを確認。当室では今後も調査を継続し、データを蓄積しながら低収要因の分析と対策に活用するほか、将来的には収量予測による販売計画への活用も検討している。



開花状況の調査



開花前の花芽

南予地方局八幡浜支局 地域農業育成室

■スマート農業技術の普及に向け、西宇和スマート農業推進協議会検討会を開催

- 地域農業育成室は12月3日、西宇和地域でのかんきつスマート農業技術の普及に向けた第2回検討会を開催し、市町、JA、ベンダー企業等18人が出席した。
- 検討会では、令和元年度から2年間取り組んだ「スマート農業加速化実証プロジェクト」の実証成果を踏まえた今年度の取組状況を報告するとともに、補助事業の活用等による実装・普及に向けた具体的な方策について協議。
- 当室は今後、気象ロボットによる施肥・かん水技術、AI選果機による省力化技術の確立、簡易アシストスーツ導入候補機種の選定等に取り組むとともに、農業者へのスマート機器の導入支援、情報発信等を進め、未来型かんきつ産地への転換を目指す。



スマート農業技術の生産現場への普及に向けた検討

■AI選果機の性能向上に向けて試験を実施中

- 地域農業育成室は12月15日、農林水産研究所と連携し、AI選果機の精度向上を図るため「宮川早生」、「南柑20号」を供試して、選果の再現率と昨年からの検討事項であった浮皮、生傷の判定について試験を行った。
- 当試験は、西宇和スマート農業推進協議会が中心となって実施するAI選果機の開発・性能向上に向けた取組の一環として実施。
- 試験の結果、等級別正解率は、いずれの階級でも80%となり、一定の精度が確認された。また、再現率についても、1～2級果は86%となったが、さらなる向上が必要と考えられた。
- さらに、浮皮、生傷については選果機に流して画像データを蓄積し、ベンダー企業である(株)NPシステム開発が、改良に取り組むこととしている。
- 当室は、年明けには「甘平」、「紅プリンセス」等を供試して、精度向上に向けた試験に取り組む予定。



AI選果機による正解率・再現率の確認

■農事組合法人笑柑園ナカウラのマルドリ施設の設置を検討

- 地域農業育成室は12月21日、伊方町の農事組合法人笑柑園ナカウラの管理園地で、同法人と「西宇和柑橘集落営農組織支援事業」のモデル園として整備するマルドリ施設の設置について検討した。
- 当日は、モデル園地とする温州みかんを関係者と収穫。今後、1月以降に伐採した後、園内道とマルドリ施設（6a）を設置する計画で、老木となっている温州みかんは「紅プリンセス」に改植する。
- 当室では、同法人の取組を他地区にも波及させることを目指しており、モデル園設置とその後の管理手法について継続して支援していく。



法人所有園地の収穫を行うメンバー

■温州みかん収穫、感染予防対策を実施して順調に終了！

- 地域農業育成室は、みかん収穫期の県外アルバイトやお手伝いプロジェクト有償ボランティアの確保、アルバイト宿舎の改修等、幅広い労働力確保活動を強化してきた。
- 今年のみかんの収穫は10月27日から始まり、例年より約5日早い12月25日にほぼ終了。例年以上に人員を確保でき、順調に収穫が進んだ。
- 当室では今後の労働力確保対策に活用するため、アルバイトら20人に対し、働き方や施設整備についての感想、要望の聞き取り調査を実施。
- アルバイトからは、「個室にしてもらって疲れが癒される」「仕事も住まいも農家の方の気配りもありがたく、来年も来ようと思う」といった意見が聞かれた。聞き取りの結果は取りまとめ、今後、関係機関、農家に報告するとともに、次年度のアルバイト確保に向けた受入体制の改善に資することとしている。



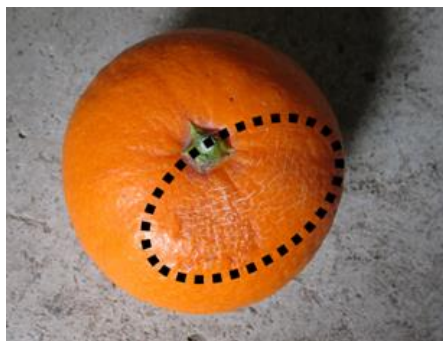
PCR検査で陰性を確認して作業する県外アルバイト



女性アルバイトに聞き取り調査を実施

■温暖化に対応した「清見」の高品質生産に向けた新技術開発をコーディネート

- 地域農業育成室は、ジベレリン散布が「清見」の果皮障害軽減に効果があるか、みかん研究所と共同で調査している。
 - 「清見」の果皮障害軽減については、現状、夏季のカルシウム剤散布を普及推進しているが、現場では、今後予測される更なる温暖化などに対応できる新しい技術開発が求められている。
 - このような中、温暖化で問題となっている果皮障害軽減に高い効果のあるジベレリン散布は、現在、「不知火」「はるみ」「愛媛果試第28号」など限られた品種のみ使用可能であることから、当室が「清見」に対するジベレリン使用の認可に必要な試験の実施を農林水産研究所に要請していたもの*。
 - 12月9日は、これまでに検討していた試験内容をもとに、現地ほ場でジベレリン散布を実施。今後、収穫前にその効果及び実用性について、研究機関とともに検討することとしている。
- ※（公財）日本植物調節剤研究協会に農薬登録を目指す品種、濃度及び散布時期を申請・試験を行い、3事例の実用的な効果が認められると、申請内容での農薬使用が可能となる。



貯蔵中の腐敗を助長する果皮障害



「清見」に対するジベレリン散布試験

南予地方局八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班

■今年度設置の防護柵付近に新たな獣道、迅速な捕獲へ

- 大洲農業指導班は12月9日、大洲市森山荒平地区（鳥獣害防止対策重点地区）で、JA愛媛たいきの鳥獣管理専門員受講生や大洲喜多猟友会と連携し、イノシシの通り道を検索した。
- 活動は鳥獣管理専門員実践講座の一環として実施されたもの。わな猟免許を取得したばかりの受講生が、猟友会や地区内の農家と協力してイノシシの捕獲を目指す。当班は専門員養成に向けて、イノシシの生態や出没状況に関する情報提供、狩猟免許取得に向けた助言等、継続した支援を行っている。
- 参加者は、講師の（株）野生鳥獣対策連携センターの阿部豪氏と共に、地区周辺の山林を検索。防護柵を既に設置しているユズ園付近で新たな獣道を発見、受講生が近日中に餌付けや、わなの設置等を行う。
- 当班は、鳥獣害に強いモデル集落づくりと「攻め」と「守り」の実用的な技術を有する鳥獣管理専門員の養成のため、引き続き様々な支援活動に取り組んでいく。



ユズ園付近の獣道

■「愛たい菜」で冷蔵シャインマスカットをPR販売

- 大洲農業指導班は12月14、16、19日の3日間、JA愛媛たいきや生産者と連携し、冬季出荷用シャインマスカットの鮮度保持状況の検査を実施した。
- 9月にフレッシュホルダーによる鮮度保持処理を施し、約3ヶ月間冷蔵貯蔵した「シャインマスカット」約1,600房が出荷時期を迎えたもの。
- 冷蔵庫から出した「シャインマスカット」を一房ずつ丁寧に検品して、腐敗果や軟化した粒を取り除いたうえで、鮮度をチェック。貯蔵ロスはほとんどなく14日と16日合わせて約1,000房が出荷された。
- 市場からのニーズが高い冷蔵「シャインマスカット」の冬季出荷を行っているのは、県内ではJA愛媛たいきのみ。冬季出荷量が少ないこともあり、ほとんどが中予方面へ出荷される。
- 当班は、地元のファンづくりや消費者へのPRを強化するため、産直市「愛たい菜」での販売を提案。クリスマスや里帰り需要を見込んで20日から店頭販売を開始しており、価値ある地域産品の認知度向上に努める。



一房ずつ丁寧に検品



等級に分けられ、出荷！

■ 鳥獣害対策座談会で情報共有、新たな課題も抽出！

- 大洲農業指導班は12月18日、内子町平山地区で鳥獣害対策座談会を開催した。同地区は昨年度の事業で、栗やケールなどの園地に防護柵（ワイヤーメッシュ）を導入している。
- 座談会には、同地区の農家4人が参加。有害獣の出没状況や、柵の管理状況などについて情報交換するとともに、現状を「見える化」するための鳥獣害対策マップを作成した。
- 当班は、センサーカメラの映像紹介や、巡回中に気付いた改善点などの指導を行い、有効な「守り」の継続を呼びかけた。農家からは、柵の内側では農作物被害の発生はほとんどないが、外側ではイノシシの掘り跡が数多く見られることや、格子上部の隙間をくぐり抜け、イノシシが侵入する事例があったことなどが報告された。
- 当班は、マップ上に示された重要ポイントや侵入箇所などについて、カメラ設置や当該個体の捕獲など具体的対応を検討するとともに、座談会での農家同士の情報共有や意識醸成を図りながら、地区の実情に応じた鳥獣害対策に取り組んでいく。



参加者全員で出没場所をチェック

■ 新規就農者の栽培技術向上を目指して

- 大洲農業指導班は12月22日、ぶどうを栽培する新規就農者の栽培技術向上を目的として、農家メンターと技術指導を実施。
- 本指導は、「農業次世代人材投資事業」にかかる取組の一環で、当班、大洲市、JA愛媛たいきで構成する大洲市新規就農サポートチームによる経営や販売などの相談に加え、技術的な相談を専属で受ける先輩農業者をメンター（身近な相談者）とし、新規就農者にきめ細かな技術指導を行うことで、就農者の営農をサポートするもの。
- 就農1年目の栽培上の苦勞や販売状況などを聞き取った後、園地の管理状況や樹勢等を確認。冬場の主な作業であるせん定技術を中心にレクチャーした。就農者からは具体的な質問や相談を受け、豊富な現場経験に基づく指導は貴重で有意義なものとなった。
- 当班は、経験が不足する新規就農者の不安解消や技術的課題解決に向け、引き続きチームによる個別訪問や迅速な相談対応などにより、サポート活動を強化していく。



就農1年目の苦勞や生産販売状況を聞き取り



熱心に相談する新規就農者

南予地方局八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班

■新規就農者への巡回指導を実施

- 西予農業指導班は、11月15日から12月9日にかけて、西予市、JA等と「農業次世代人材投資事業（経営開始型）」を利用している新規就農者26人に対し、現地ほ場等で面談を実施。
- 当日は、生産・販売状況や農地の確保状況等の聞き取り、栽培作物の状況に応じた肥培管理等の技術的アドバイスをを行った。
- 面談の結果、22人は概ね経営計画に沿った経営が実施できていたが、4人は作付面積減少や、生産量が少ない等の課題が明確となった。
- 当班は、新規就農者の経営が早期に安定するよう、引き続き関係機関と連携し支援を行うとともに、特に、経営計画に達していない者に対しては、基本管理の徹底や規模拡大、栽培品種の見直し等について継続的に助言していく。



経営状況の聞き取り



ほ場での肥培管理指導

■西予食文化伝承動画を制作

- 西予農業指導班は今年度、西予CATVと連携し、西予生活研究協議会の食文化伝承動画の制作を行っている。
- 管内各地域の代表的な地域食を取り上げ、その食材となる農産物の栽培過程と調理・加工工程を動画に収め、今後の食文化伝承活用に役立てることとしており、12月3日には明浜町の「みかん餅」、10日には城川町の「山菜おこわ」の動画を撮影した。
- 撮影は、講師となる会員がアナウンサーとやり取りしながら、材料、作り方やそのコツ、地域食にまつわる話を紹介。
- 当班は、編集した動画を地域食の伝承活動に活用していく。



調理工程の撮影



明浜町の「みかん餅」



城川町の「山菜おこわ」

■学校給食における地元産小麦の確保に向けて

- 西予農業指導班は12月6日、西予市（学校給食センター・農業水産課）、JAひがしうわ、JA全農えひめの担当者など12人の参加により、市内学校給食に供するパンの原材料確保にかかる意見交換会を開催した。
- これは、現在、学校給食用パンの原材料に地元産パン用小麦「せときらら」を使用しているが、4年産の栽培面積が3haまで減少（3年産31ha）したことから、将来にわたり安定的に確保する方策を検討するために当班が呼びかけ開催したもの。
- 当日は、「生産側」であるJAと「消費側」である学校給食センターという日頃接点がない関係者の集まりであることから、小麦の生産から流通までの実態及びパン用小麦生産減少の要因や学校給食におけるパンの提供量等について互いに情報共有した。
- その結果、今後も市内産のパン用小麦を継続して確保するための手法等について、両者が申し合わせするまでに至った。
- 当班では、地域農業振興および食農教育推進のため、コーディネート機能を発揮し生産者と消費者を結びつける活動を今後も展開していく。



小麦の播種作業

■地域料理を子どもたちへ伝承

- 西予農業指導班は12月9日、城川町生活研究協議会と連携し、城川小学校で「食農教育推進事業」に係る「食文化普及講座」を開催。
- 当日は、同校6年生13人を対象に協議会員6人が講師となって、地元で生産されたしいたけなどを使った「炊込みごはん」「2色なます」「かきたま汁」の3品を調理し、昼食を兼ねた試食を行った。
- 参加した児童からは「いろんな野菜の切り方があり、丁寧に教えてもらい上手にできて嬉しかった」「初めて作ったが美味しかったので、家でも作りたい」などの感想が聞かれた。
- 会員からも「先般学んだ『分かりやすく伝えるコツ』を実践しながら、子供たちに伝えることができた」「地域食に関心を持って家庭でも作って欲しい」といった声が聞かれ、今後も食文化伝承に向けた活動に意欲を見せていた。



野菜の切り方を指導

■ぶどうの長梢せん定のポイントを指導

- 西予農業指導班は12月14日、JAひがしうわと連携して、西予市宇和町管内2ヶ所で12人の栽培者が参加し、ぶどうのせん定講習会を開催した。
- 当日は、せん定を実演しながら負け枝を作らないことや、古い側枝は適宜若い枝まで切り返すなど、ぶどうの長梢せん定のポイントについて指導。
- また、最近新しい品種の栽培に挑戦する生産者が増加していることから、苗木の導入数が多い「シャインマスカット」や「クイーンニーナ」など8品種の特性と栽培管理の説明を行った。
- 当班では、今後も安定したぶどうの生産量を維持するため、次年度の高品質果実生産につながるよう、継続的な指導を行っていく。



現地でせん定のポイントを講習



各品種の特性について説明

■新規就農者が鳥獣害対策等について学ぶ

- 西予農業指導班は12月14日、西予市と共催で農業次世代人材投資資金受給者等を対象に「第1回交流研修会」を開催。
- 経営作物が異なっても共通の課題となっている鳥獣害対策をメインテーマとし、鳥獣管理専門員の資格を持つ西予市役所職員を講師に、鳥獣被害防止に向けた防護柵等の守りの対策と捕獲による攻めの対策、集落ぐるみでの取り組みの重要性等、実践経験に基づく対策を学んだ。
- また、産地戦略推進室から地域特産かんきつ「川田温州」の産地化について情報提供し、新規栽培者の掘り起こしに努めた。
- 当班は新規就農者の経営発展と農業者間の交流が図られるよう、引き続き関係機関と連携し支援を行う。



鳥獣害対策を学ぶ新規就農者



「川田温州」の紹介

■地元農高生の実践技術の習得をサポート

- 西予農業指導班は12月15日、西予市水稻防除協議会と連携し、宇和高校の農場において農業科（生物工学科）の生徒9人を対象に、水稻の肥料試験における今年度5回目の研修会を開催した。
- これは、将来、地元の高校生が地域農業の担い手として活躍してもらえるよう、普及指導員が直接、実践的な技術などを指導しているもので、今回は塩水選の方法や粒数の測定方法等を指導。
- 受講した生徒からは「将来、就農を希望しているので今回学んだことを生かせるようにしたい」といった声が聞かれ、担い手確保の一助とすることができた。
- 当班では、地域の主要品目である「西予米」に対する理解を深めるだけでなく、地域農業の現状や農業の魅力を地元農高生に伝え、将来、地域を担う人材の育成に努める。



調査水稻の脱穀を体験する農高生



収量構成要素の調査方法を指導

■西予市の若手農家がイチゴの輸出を開始！

- 西予市のいちご生産者が、マカオに向け輸出を開始し、12月21日に2箱を送った。今シーズンは取引先の注文に応じて、随時、発送する予定。
- これは西予農業指導班が「紅い雫」のブランド力向上を目指すため、個別生産者に対して、産直通販サイト（食べチョク等）や飲食店等への様々なチャンネルを通じたマッチング等を支援し実現したもの。
- 今回は、県ブランド戦略課と連携し輸出業者を通じてドイツ等へサンプルを送付した結果、マカオのホテルから「紅い雫」を使用したいと発注を受け輸出が実現した。
- ホテルのシェフからは、国内他産地のイチゴと比較し「紅い雫」の特徴ある香りや食味等の品質と価格帯（高級商材）が見合っていることが評価された。
- 当班では、今回の輸出をきっかけに、マカオ国内での更なる販路拡大やアジア圏域など他国への輸出も視野に入れ、意欲ある生産者の取組を支援していく。



輸出した「紅い雫」

南予地方局八幡浜支局 産地戦略推進室

■「第6回、第7回南予マルシェ」を八幡浜と宇和島で開催！

- 八幡浜支局と南予地方局の産地戦略推進室は、12月8日に八幡浜銀座商店街で「第6回南予マルシェ」を、17日に宇和島恵美須町商店街で「第7回南予マルシェ」を開催した。
- 両商店街とも、開催の回数を重ねてきたことから心待ちにされる方が増えてきており、特に道の駅の野菜販売は、出店すると同時に大勢が集まるなど人気の高さがうかがえた。
- また、八幡浜は八日市と同時開催しており、テレビ局から市内の名物を紹介する番組取材を受けるなど、南予マルシェによる道の駅や農業者の出店をPRすることもできた。
- 両室では引続き感染防止対策を徹底した上で、南予特産の果物、野菜、農産物加工品の品揃え充実を図り、農産物の販売促進・PRを通じて生産者の所得確保に努める。



テレビ番組の取材（12/8八幡浜）



道の駅の野菜の販売が好調（12/17宇和島）

■冷蔵富有柿 香港へ輸出

- 産地戦略推進室が支援しているJA愛媛たいきの冷蔵富有柿2tが、12月15日、19日に香港へ向けて出荷された。
- 当室とJA愛媛たいき、ブランド戦略課及び大洲農業指導班は、11月16日、輸出事業者グローウェルジャパン(株)の来県に合わせて、今年の富有柿の香港輸出について協議を行っており、その内容に基づいた輸出となった。
- 今年は、11月中旬から「松本早生」と「富有」を分けて受け入れを行い、熟期の遅い「富有」のみを冷蔵することにより、軟果によるロスが少なく品質が安定したことから、来年以降も分けて受入れすることになった。
- 当室では、来年以降も継続できるよう関係機関と連携し、輸出に関する産地の取組支援と情報提供に努める。



大袋で冷蔵貯蔵される富有



個装した後に輸出

■加工用青ねぎの栽培技術向上に向けた講習会を開催

○産地戦略推進室と西予農業指導班は12月10日、加工用青ねぎの栽培・病虫害防除講習会を開催し、(株)百姓百品村の担当者2人と契約農家9人及び農林水産研究所の関係職員が参加。

○これは、当室が今年1年間で取り組んだ栽培技術改善の内容を共有するとともに、増加する病虫害への対策指導を求める生産者の要望があったため開催したもの。

○会では、栽培技術の改善点、12月1日に病虫害発生予察特殊報が出されたネギハモグリバエB系統、主要病虫害や最新品種についての情報提供等を行った。これを受け、生産者からは抽苔の抑制対策や農薬の防除効果等についての質問が出る等、栽培技術向上に対する関心の高さがうかがえた。

○現在、管内では13haで加工用青ねぎの栽培が行われており、引き続き講習会や技術実証を通じた産地化を推進する。



栽培や防除について講習

■フィンガーライムの産地化に向けて宮崎県の栽培状況を調査

○産地戦略推進室は12月21日、宮崎県門川町を訪問し、フィンガーライムの産地づくりに向けた栽培状況を調査した。

○宮崎県門川町では、農業振興品目として地域再生計画(地域創生推進交付金)の中で生産を推進しており、「門川町フィンガーライム研究会」が中心となり平成30年から産地化に取り組んでいる。

○当日は、門川町役場担当者から現在の栽培状況や販売先、産地化プロジェクトの課題について説明を受け、愛媛県での生産状況と合わせて意見交換を行った。また、栽培園において、生産者2人と栽培品種やせん定方法、病虫害発生状況等について意見を交わし、当室と門川町は、産地化推進方法や安定生産技術に関して、今後も情報共有していくこととなった。

○当室は、今後も他産地における事例収集に努めながら、周年安定生産のための技術確立や販路開拓を図り、フィンガーライムの産地化を支援する。



生育状況等に関して生産者と意見交換

農産園芸課 高度普及推進グループ

■県有数の観光施設で「紅い雫」「あまおとめ」の朝採りいちごジュースの提供が開始

- 高度普及推進グループは、今治市のタオル美術館において県育成品種のいちご「紅い雫」「あまおとめ」の長期多収収穫を目指した栽培実証を開始しており、12月10日より同館内のカフェにおいて収穫されたいちごを使ったジュースの提供が始まった。
- 同館の「紅い雫」「あまおとめ」は、最新の複合環境制御型養液栽培ハウスで栽培実証されており、年間数十万人の県内外の来館者に展示されている。
- 24日には、同館で開催されているイルミネーションとともに、栽培実証の様子やいちごジュースの提供等がテレビ中継で紹介された。
- 今後、同館では当グループの指導の下、閉鎖型育苗システムの導入やハウスの増設が計画されており、屋外ガーデンにおける野菜栽培についても今回の実証で使用した専用培地による養液栽培に全面改良される予定となっている。



イルミネーションに合わせた夜間の栽培展示



カフェで提供されている朝採りいちごジュース

■首都圏における流通・販売事前調査について

- 高度普及推進グループは12月8日から11日に首都圏の青果店において、若手普及職員が制作した県産品のPR動画の放映効果や県産品の購買動向等を調査し、24日にその結果を報告する研修会を、各普及拠点等を対象にリモートで開催した。
- 同調査は、首都圏で青果店を経営する株式会社ユナイテッドベジーズの協力により3店舗（西葛西店、薬円台店、白井店）で行い、報告会には同社の社長もリモートで参加した。
- 研修会では、当グループから嗜好品である「温州みかん」や「紅まどんな」は、フェア時は平時の6～8倍売上げたものの、野菜類は2～3倍程度に留まったことや、PR動画はフェアの雰囲気作りには役立ったものの、動画の内容は産地の伝えたい情報と消費者が知りたい情報にミスマッチがあったことを報告した。
- 今後、各普及拠点で各品目を担当する若手普及指導員も、首都圏の量販店等で県産品の評価や販売の状況、制作したPR動画による購買行動等を調査する予定で、調査を通じて県産農産物の流通実態の把握やPR手法等に係るスキルアップを図る。



西葛西店の果実売場（平時）



西葛西店の果実売場（愛媛フェア開催時）

■大洲、東温産しょうがが関東市場や県内向けに初出荷

- 高度普及推進グループが、高収益を得られる品目として新たに栽培や貯蔵の実証に取り組んでいる大洲市及び東温市産のしょうがが、関東及び県内向けに初出荷された。
- 大洲市では、当グループの仲介により関東の大手卸売業者との取引が成立し、12月18日には収穫された28tのうち8tが関東に初出荷された。今回、関東へのサプライチェーンが繋がり販売チャンネルが多角化したことにより、安定した価格で販売しており、今後は高知県の卸売業者にも出荷される予定。一部は来年の種用として貯蔵される。
- 東温市では、ハウス内で加温しながら長期間生育させ収穫する栽培実証に取り組んでおり、12月からは新しょうがとして県内量販店に高単価で販売されている。
- 当グループでは、大洲市では令和4年3月の作付けを目指し、普及組織先導型革新的技術導入事業を活用した高張力鋼管を使用した低コストハウスの建設を指導しており、引き続き県産しょうがの年間供給体制の整備に向けた指導を行う。



関東への出荷に向けた積み込み作業



貯蔵されている次年度用の種しょうが

農産園芸課 企画調整グループ

■若手職員が地域課題を解決するプロジェクト調査研究の中間実績を発表

- 企画調整グループは、採用3、6年目の普及職員9名が、担当地域の課題解決に向けそれぞれ技術実証を行うプロジェクト型調査研究の中間報告会を開催した。
- 同プロジェクトは、若手職員の現場での指導力の向上を図るもので、発表会には農林水産部長をはじめとする部内幹部が参加したほか、本年度からリモートでの開催としたことから、各普及拠点や研究機関等から70名が参加した。
- 発表では、自らが担当する地域から解決すべき課題を抽出し解決するまでの取組が紹介され、県庁会場等からは、対象地域の実情や取組による変化等について質疑が行われた。
- 発表や質疑の様子は、リアルタイム農業普及指導ネットワークシステムに映像データとしてデータベース化されており、職員ならいつでも内容を閲覧、確認することから、これから現場指導に当たる若手職員の資質向上にも資するものとなっている。



発表者との質疑（県庁会場）



発表者との質疑（県庁会場）

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543